

第10期 全日教連モニター調査

言語活動の充実 調査結果



全日本教職員連盟

言語活動の充実についての調査

全日本教職員連盟

1 はじめに

新学習指導要領では、第1章「総則」の第1「教育課程編成の一般方針」の中で、小学校・中学校ともに「児童（生徒）の発達段階を考慮して、児童（生徒）の言語活動を充実する」と記されている。中教審は、「各教科等における言語活動の充実は、今回の学習指導要領の改訂において、各教科等を貫く重要な改善の視点である」と答申している。

児童生徒の言語能力やコミュニケーション能力は近年著しく低下していると言われている。若者の間で略語が多く使われたり、敬語が正しく使われなかったりと日本語の乱れも顕著になってきている。他人とうまく関わることができずに孤立する子供や、相手を傷付けてもそのことに気付かない子供も増えてきている。

言語活動を充実することは、こういった現状の改善に向けた一つの方策となり得ると考えられる。しかし、教師が、児童生徒の言語能力・コミュニケーション能力の課題を的確に捉えた上で活動を構成しないと、児童生徒が対応しきれず、知識・技能を活用するための思考力・判断力・表現力等を伸ばすことはできない。まずは、児童生徒の言語能力、コミュニケーション能力の課題を明らかにする必要がある。

また、言語に関する能力を育むにあたっては、読書活動が不可欠であると言える。読書習慣の確立に向けて、新しい取組の在り方を考えていかなければならない。学校図書館の活用や学校における環境の整備も重要であり、様々なメディアの働きを理解し、適切に利用する能力を高めることも必要である。これらの取組に対応するために現場に何が必要であるかを明らかにし、環境整備を進めなければならない。

そこで、今回のモニター調査では、言語活動の充実について意見を集めた。現在の子供たちの言語能力・コミュニケーション能力の課題を整理し、それらの能力を育むために現場に何が必要なのかを明らかにし、環境整備に向けて提言を行うための資料とする。

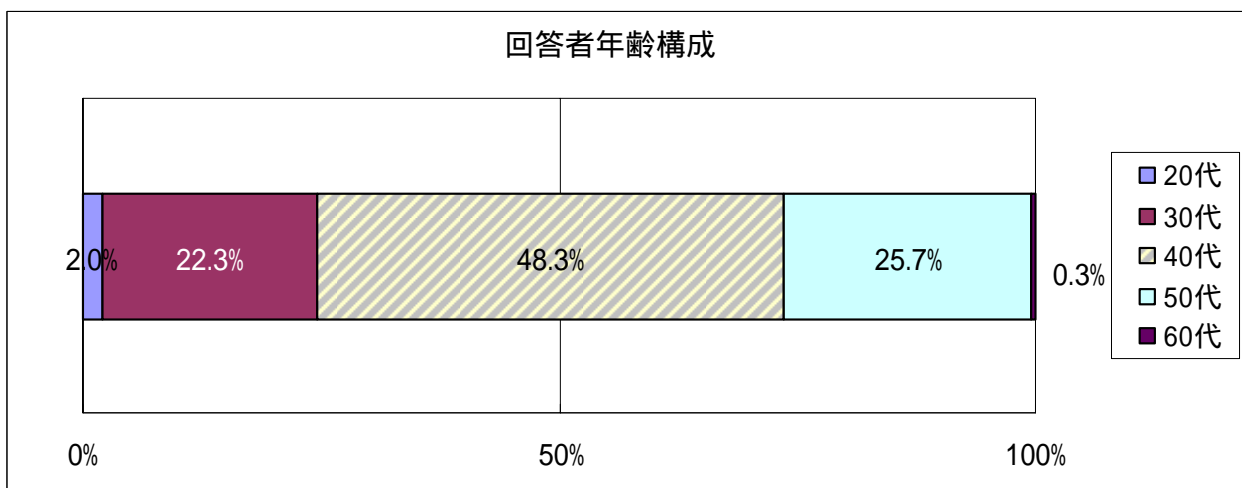
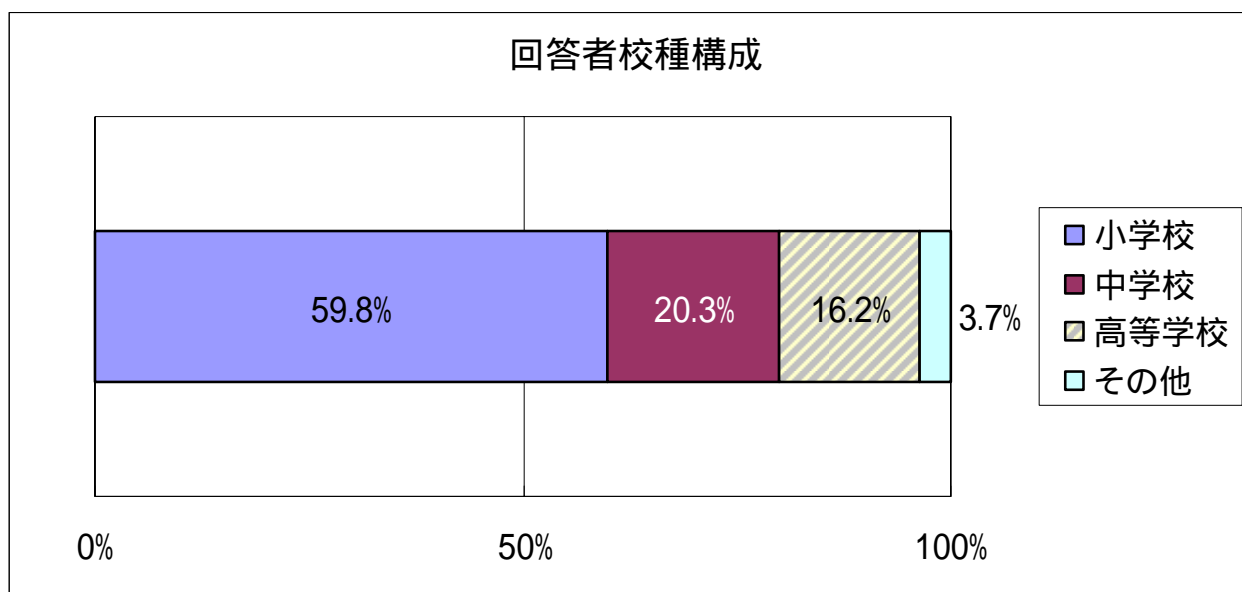
2 調査のねらい

児童生徒の言語能力・コミュニケーション能力の課題を明らかにすることで、各教科等における言語活動の在り方を探る。また、言語環境の充実に向けて、必要なものを明らかにし、環境整備に向けて提言を行うための資料とする。

3 調査の方法と期間

平成21年1月30日から2月16日までの間、全国32単位団体から推薦された全日教連モニター600名を対象に調査を行った。

4 回答者構成

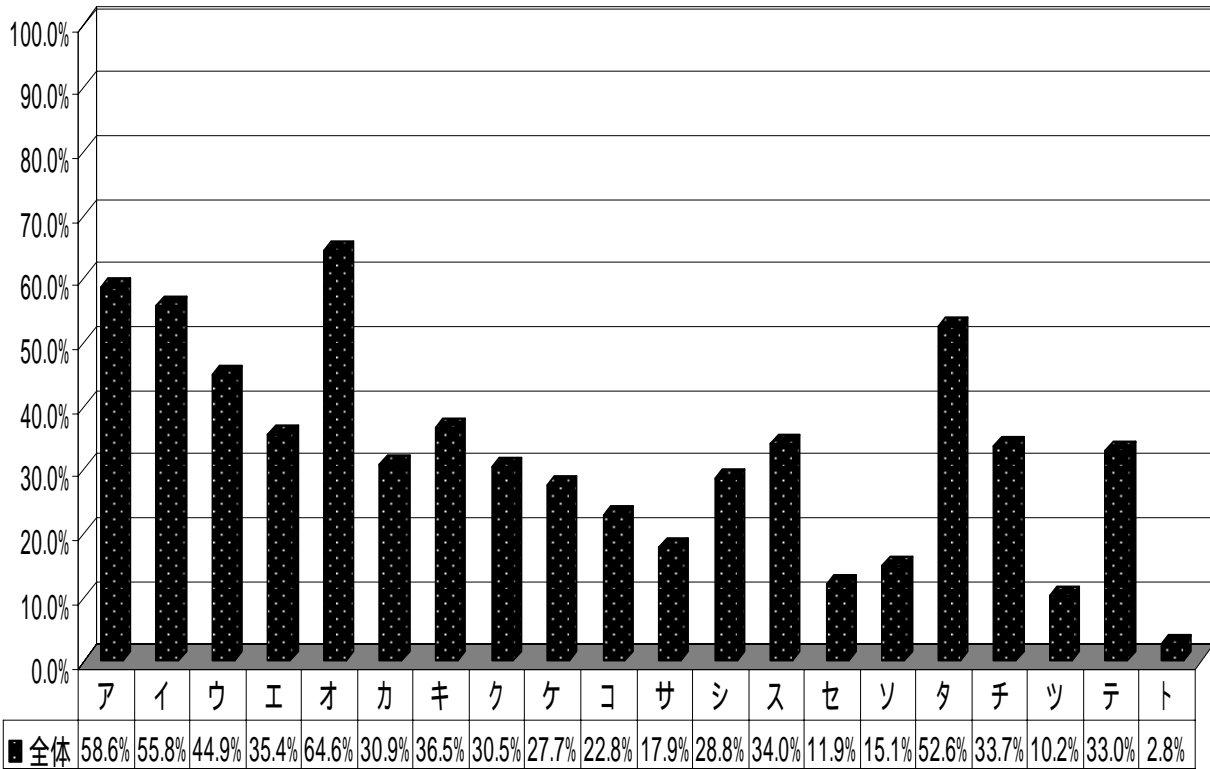


5 調査結果分析

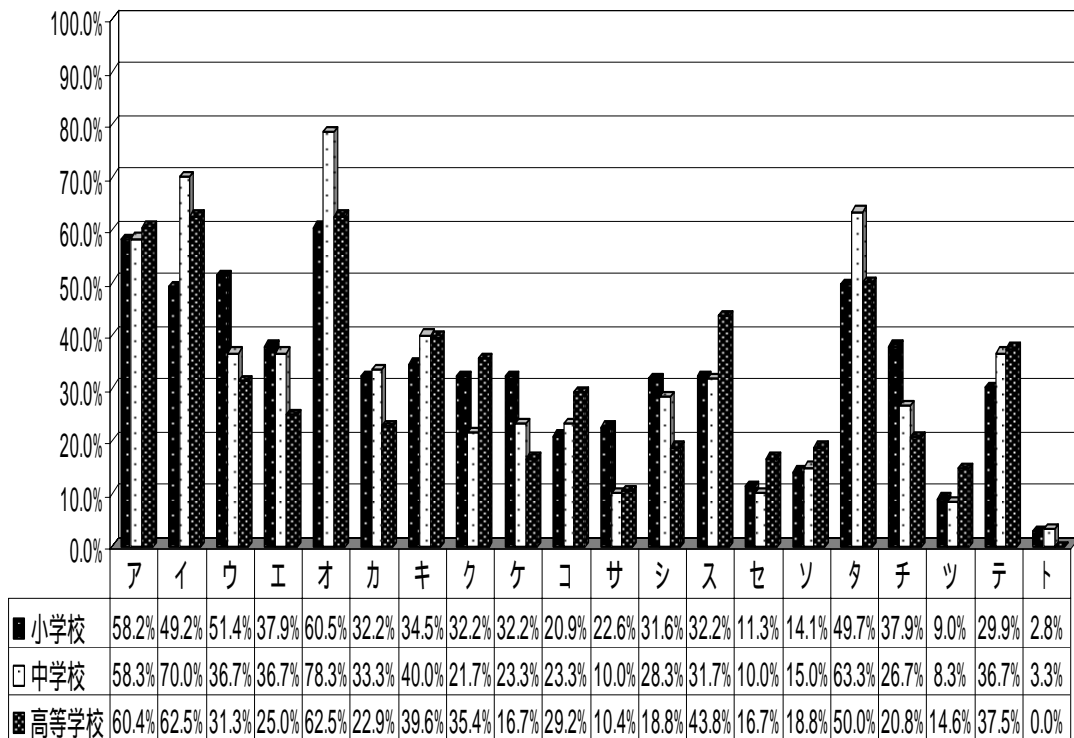
設問1 近年の児童生徒の言語能力やコミュニケーション能力について、あなたが特に課題だと思うことは何ですか。
(複数選択可)

- ア 語彙が少ない。
- イ 敬語を正しく使うことができない。
- ウ 主語や文末の言葉等、必要な情報が抜け落ちていて、話の内容が聞き手に伝わりにくい。
- エ 声量や言葉遣いを場に応じて使い分けることができない。
- オ 「うざい」「死ね」等、相手を極度に傷付ける言葉を平気で使う。
- カ 「ありがとう」「ごめんなさい」等が素直に言えない。
- キ 話を正しく聞き取ることができない。
- ク 活字を読んで、情報を正確に読み取ることができない。
- ケ 活字を読んで、場面の様子や登場人物の気持ちを豊かに想像することができない。
- コ 読書離れが進んでいる。
- サ 文章を書くと、文のねじれや重なりが多い。
- シ 自分の思いを文章に書くことができない。
- ス ことわざや故事成語等、伝統的な教訓をあまり知らない。
- セ 和歌・俳句や古文を読んで、日本語の美しさ・リズムを感じる事ができない。
- ソ 一人でいることを好み、自分から人に関わりを持とうとしない。
- タ 自分の思いばかりを主張してしまい、相手の思いを感じ取ることができない。
- チ あいさつができない。
- ツ 自己主張がほとんどできない。
- テ 一定の友達との関わりに固執してしまう。
- ト その他()

設問1 全体



設問1 校種別



- ・ 選んだ回答者の割合が高かった項目は、オ「『うざい』、『死ね』等、相手を極度に傷付ける言葉を平気で使う」(全体で 63.8%)、ア「語彙が少ない」(同 58.7%)、イ「敬語を正しく使うことができない」(同 56.5%)、タ「自分の思いばかりを主張してしまい、相手の思いを感じ取ることができない」(同 51.8%)。
- ・ 選んだ回答者の割合が低かった項目は、ツ「自己主張がほとんどできない」(同 10.1%)、セ「和歌・俳句や古文を読んで、日本語の美しさ・リズムを感じる事ができない」(同 12.3%)、ソ「一人であることを好み、自分から人に関わりを持とうとしない」(同 15.2%)、サ「文章を書くと、文のねじれや重なりが多い」(同 18.1%)。
- ・ 校種による大きな差は見られないが、イ「敬語を正しく使うことができない」、オ「『うざい』、『死ね』等、相手を極度に傷付ける言葉を平気で使う」、タ「自分の思いばかりを主張してしまい、相手の思いを感じ取ることができない」は、中学校で、他の校種に比べてやや多くの回答者が選んだ。

近年の児童生徒の課題として、言語能力よりもコミュニケーション能力の方に、大きな問題があると捉えている回答者が多い。

また、児童生徒の孤立を課題として捉えている回答者が少ないことの原因として、孤立する児童生徒は学級の中にあまりたくさん存在しないことが考えられる。しかし、数は少なくとも深刻な問題なので、教職員の意識を高める取組を進めなければならない。

「敬語」「言葉遣い」「自己主張」等は、発達段階に応じて変化が激しい。特に、思春期にあたる中学校の生徒に対しては、これらの面でのきめ細かな指導や配慮が必要であることが分かった。

その他の意見

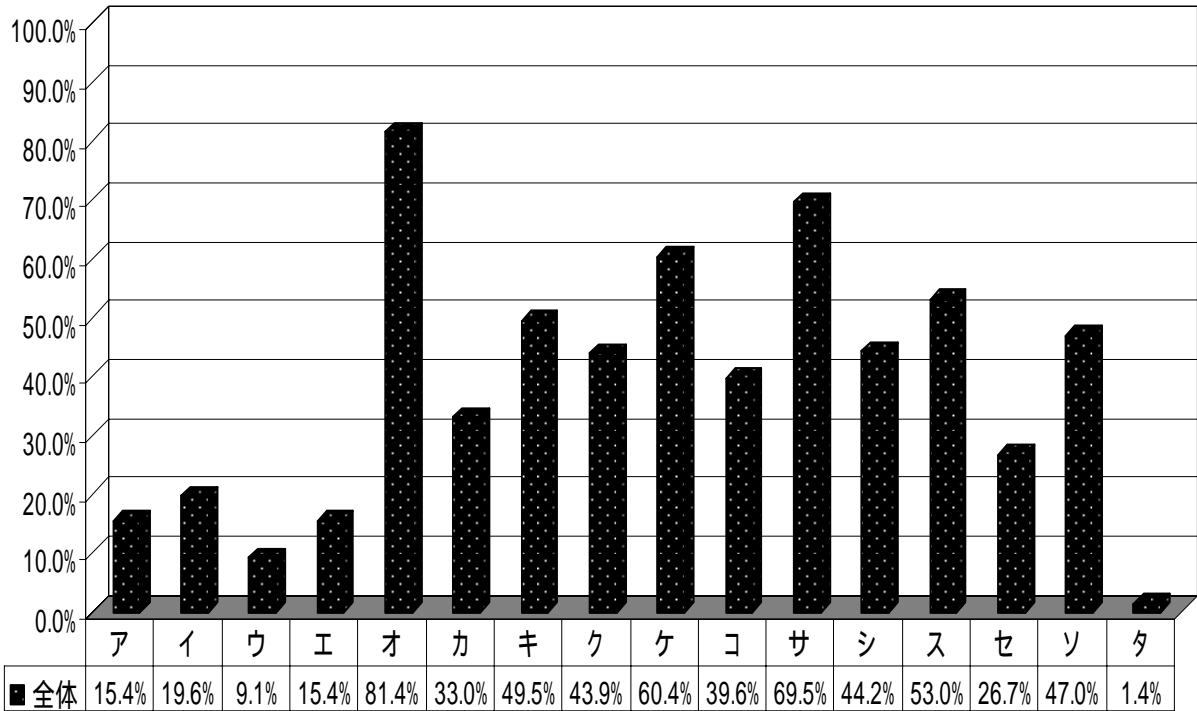
- ・ 自分の思いを適切な言葉にして相手に伝えることができない。
- ・ 相手を困らせる言動で関わりを持とうとする。
- ・ 文を組み立てて伝えることができない。
- ・ 集中して最後まで聞くことができない
- ・ 相手の目を見て、聞くことができない
- ・ 返事をしない。反応を返さない。

設問2 近年の児童生徒の言語能力やコミュニケーション能力に課題が生じている原因として、あなたの考えに近いものはどれですか。(複数選択可)

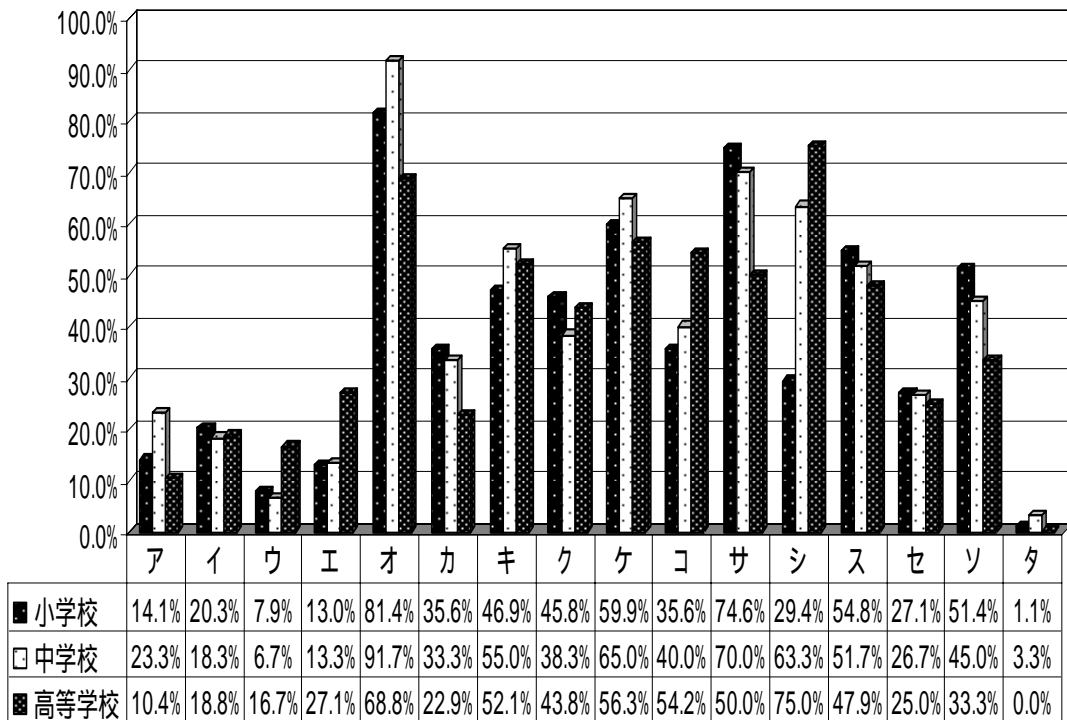
- ア 国語の時数や内容の減少
- イ 授業中での議論や論述等の活動の減少
- ウ 特別活動の減少
- エ 教職員の言語能力・コミュニケーション能力の低下
- オ 核家族化や共働き家庭の増加による家族間の関わりの減少
- カ 少子化
- キ 子供への過保護・過干渉
- ク 保護者の言語能力・コミュニケーション能力の低下
- ケ テレビを中心としたマスコミの影響
- コ パソコン・インターネットの普及
- サ ゲームの普及
- シ 携帯電話等によるメールの普及
- ス 地域の人たちとの人間関係の希薄化
- セ 社会的なコミュニティーの場の不足
- ソ 外遊びをする時間や場所の不足、安全性の問題
- タ その他

)

設問2 全体



設問2 校種別



- ・ 選んだ回答者の割合が高かったのは、オ「核家族化や共働きの家庭の増加による家族間の関わりの減少」(全体で 81.5%)、サ「ゲームの普及」(同 69.2%)、ケ「テレビを中心としたマスコミの影響」(同 59.8%)。
- ・ 選んだ回答者の割合が低かったのは、ウ「特別活動の減少」(同 9.1%)、エ「教職員の言語能力・コミュニケーション能力の低下」(同 14.9%)、ア「国語の時数や内容の減少」(同 15.6%)、イ「授業中での議論や論述等の活動の減少」(同 19.9%)。
- ・ サ「ゲームの普及」を選んだ回答者は、小学校 - 中学校 - 高等学校の順で割合が高く、シ「携帯電話等によるメールの普及」を選んだ回答者は、高等学校 - 中学校 - 小学校の順で割合が高く、違いが顕著である。

児童生徒の言語能力やコミュニケーション能力に課題がある原因として、家庭や社会に関わる項目を選んだ回答者が多い。

逆に、ア～エのように、学校教育に関わる項目を選んだ回答者は少ない。

言語能力やコミュニケーション能力は家庭でしっかり育てて欲しいという思いの表れではないかと考えられる。また、学校教育における指導の工夫に限界を感じていることもうかがえる。

ゲームから携帯電話へと児童生徒の興味は移行していくが、そのどちらにも悪弊があると考えている。ゲームや携帯電話の使い方についても、家庭と連携を取りながら対策を考えていかなければならない。

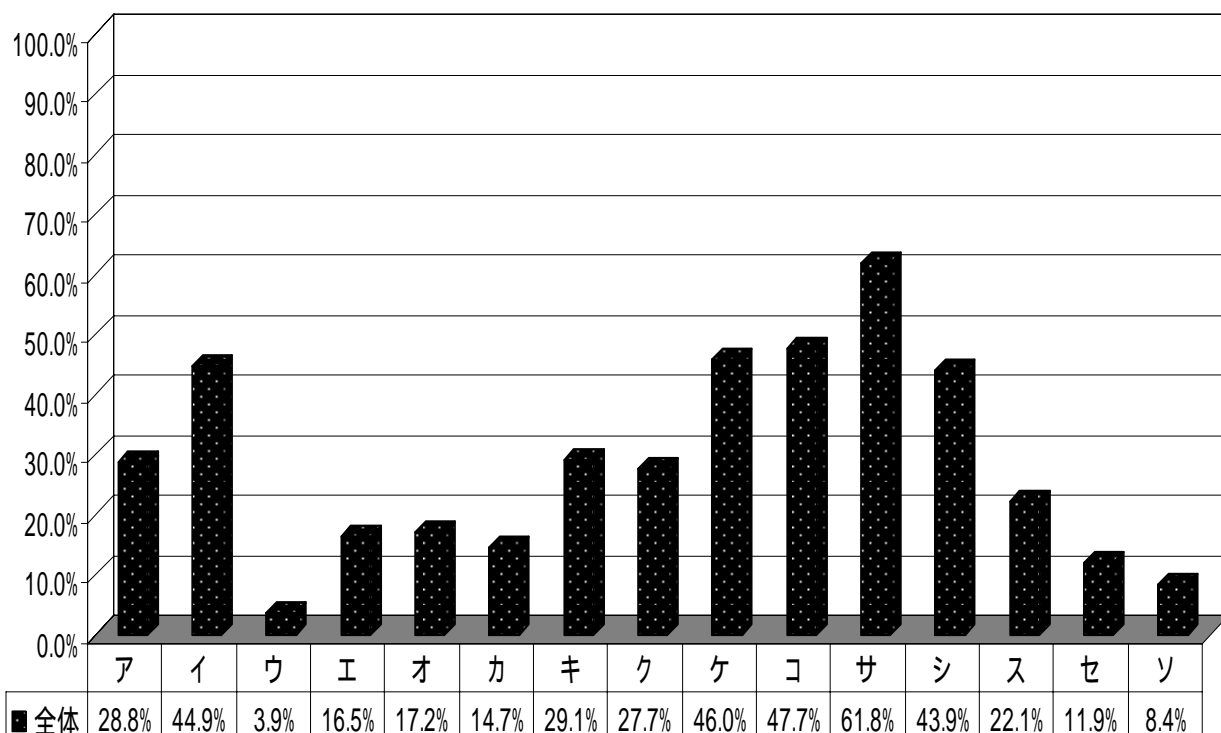
その他の意見

- ・ アに関連して、国語科における文学的文章教材の減少が、人の気持ちを想像したり推し量ったりする能力を低下させている。
- ・ 異年齢間の関わりの場の減少。

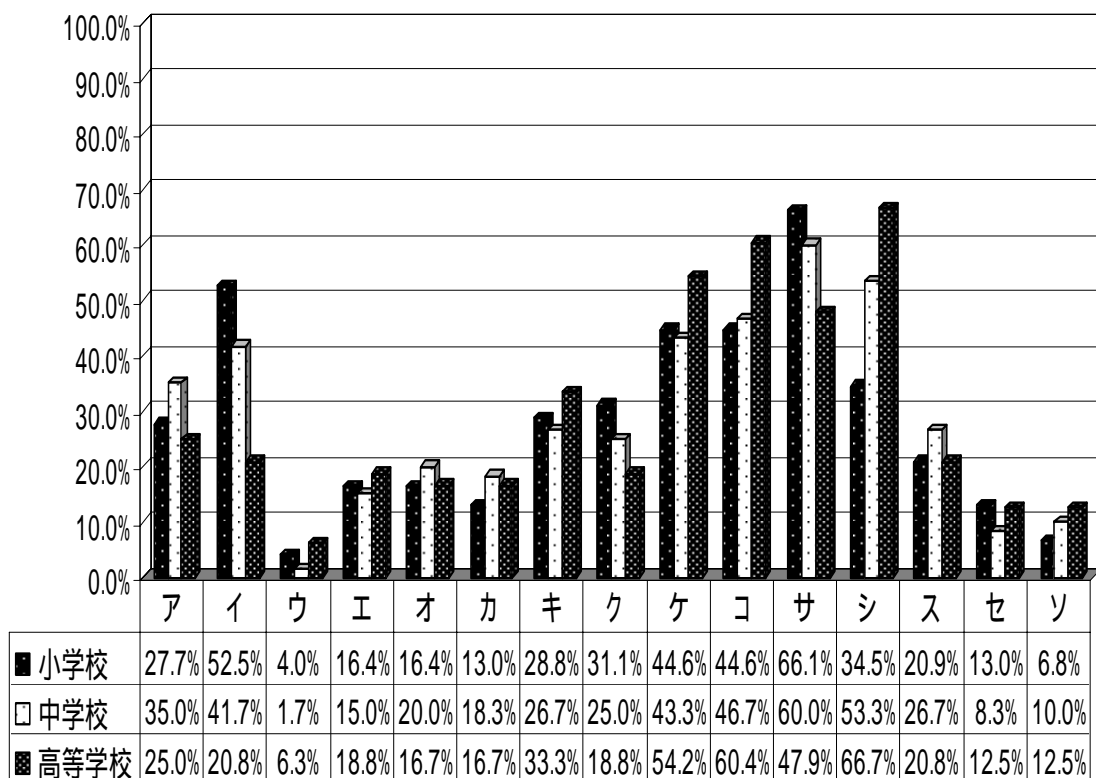
設問3 近年の児童生徒の言語能力やコミュニケーション能力の課題に対して、あなたが考える改善策に近いものはどれですか。(複数選択可)

- ア 国語の時数や内容を充実する。
- イ 各教科の学習の中で、議論や論述等の活動を充実する。
- ウ 土曜日等を活用して、特別活動の時間を十分確保する。
- エ 教職員の研修を充実する。
- オ 介護福祉制度の充実等により、3世代、4世代が同居できるような社会を実現する。
- カ 少子化対策を充実する。
- キ 雇用制度の改革等により、子育てと仕事の両立ができる社会を実現する。
- ク 子育てに悩む保護者の保護者の勉強会等、サポート体制を充実する。
- ケ マスコミへの規制を強化し、青少年への悪影響を最小限にとどめる番組作りを進める。
- コ フィルタリングを義務化したり、有害サイトの監視を厳しくしたりする等、パソコン・インターネットの規制を強化する。
- サ 長時間ゲームをし続けることの弊害を広報し、家庭への啓発を行う。
- シ 小中学生には携帯電話を与えない、高校生には携帯電話を校内で使用禁止にする。
- ス 公的な補助を充実し、各自治体等が中心になり、地域の活動を活性化する。
- セ 公立の公園に警備員を配置する等、子供が安心して遊べる場を提供する。
- ソ その他)

設問3 全体



設問3 校種別



- ・ 選んだ回答者の割合が高かった項目は、サ「長時間ゲームをし続けることの弊害を広報し、家庭への啓発を行う」(全体で 60.9%)、コ「フィルタリングを義務化したり、有害サイトの監視を厳しくしたりする等、パソコン・インターネットの規制を強化する」(同 47.5%)、ケ「マスコミへの規制を強化し、青少年への悪影響を最小限にとどめる番組作りを進める」(同 46.0%)、イ「各教科の学習の中で、議論や論述等の活動を充実する」(同 45.7%)。
- ・ 選んだ回答者の割合が低かった項目は、ウ「土曜日等を活用して、特別活動の時間を十分確保する」(同 4.0%)、セ「公立の公園に警備員を配置する等、子供が安心して遊べる場を提供する」(同 12.3%)、カ「少子化対策を充実する」(同 15.2%)、エ「教職員の研修を充実する」(同 16.3%)。
- ・ イ「各教科の学習の中で、議論や論述などの活動を充実する」は、小学校 - 中学校 - 高等学校の順で選んだ回答者の割合が高く、シ「小中学生には携帯電話を与えない、高校生には携帯電話を校内で使用禁止にする」は、高等学校 - 中学校 - 小学校の順で選んだ回答者の割合が高く、違いが顕著である。

ゲーム、パソコン、インターネット、マスコミ等による影響を少なくするための取組が有効であると考えている回答者が多い。学校・家庭・地域社会が一体となった取組が必要である。

特別活動や遊び場の確保によって、言語能力やコミュニケーション能力を育てられると考えている回答者は少ない。特別活動については土曜日等を活用することへの反対意見も多いのではないかと考えられる。

小学校では、教科学習での工夫を重視しているが、中学校、高等学校と進むと、生徒の反応が良くなかったり、時間的なゆとりがなかったりして、議論や論述等の活動が組みにくいことが考えられる。こういった活動は、学年の発達段階に応じて、内容や方法を工夫する必要がある。

その他の意見

- ・ 家の中の生活を少なくし、屋外での活動が中心となる社会にする。
- ・ 読書を増やす。体験活動を増やす。部活動を増やす。
- ・ 学校の学習内容を減少し、放課後を早くし、市や地域の社会教育、社会活動の場を確保する。
- ・ 大人が子供の規範にならないことをしているという自覚を促す機会を設ける。
- ・ 地域社会が、隣人に関心をもち、昔のような関わりの深いコミュニティとなること。
- ・ 外遊びの日を設けて、スポ小等も休み、放課後の過ごし方を充実させる。
- ・ 目上の人と会話する機会を多くするよう取り組む。
- ・ 紙媒体をもっと重視する。
- ・ 親（大人）が好き勝手な言動をしない。大人を指導する大人が必要。
- ・ 携帯電話については携帯会社（コンテンツ会社）を含めて、子供の教育の観点から規制する。
- ・ 子供たちが地域社会の一員として参加活動できる子供会活動や社会交流活動の充実。
- ・ 保護者のクレームに負けない制度を作る。
- ・ 地域の連携と雷おやじの復活。
- ・ 家庭内でのコミュニケーションをしっかりとる。
- ・ 道徳性、社会規範を高める啓発を社会全体に行う。
- ・ 公園や公民館のような遊べる場所を増やすこと。
- ・ 携帯電話は学生割引ではなく、学生割り増しにすべき。
- ・ 18歳未満は携帯メールの機能が使えない法律の策定。酒、タバコと同じレベルの扱いをする。
- ・ 異世代間交流など多様なコミュニケーションの機会を設ける。
- ・ 個人面談等の時間を増やす。
- ・ 教員、親、友達と話す時間を確保する。
- ・ P T A、家庭教育、学級等による親への指導。子供に話をさせることの大切さ、待つことの大切さを教える。
- ・ 学校図書館の充実と読書時間の確保。

設問 4 言語に関する能力を育てるためには、子供の読書活動が有効な手段の一つであると言えます。近年、朝の読書に取り組む学校も増え、その効果も報告されています。児童生徒の読書習慣を確立するために、次のうちあなたはどれが有効であると考えますか。

(複数回答可)

ア 学校図書館の蔵書を充実する。

イ 学校司書教諭を各学校に配置する。

ウ 週1時間程度、本の紹介や読み聞かせの時間を作り、児童生徒の読書への意欲を喚起する。

エ 認定を受けた児童生徒用の図書を購入する場合は消費税を免除する等の公的な補助をする。

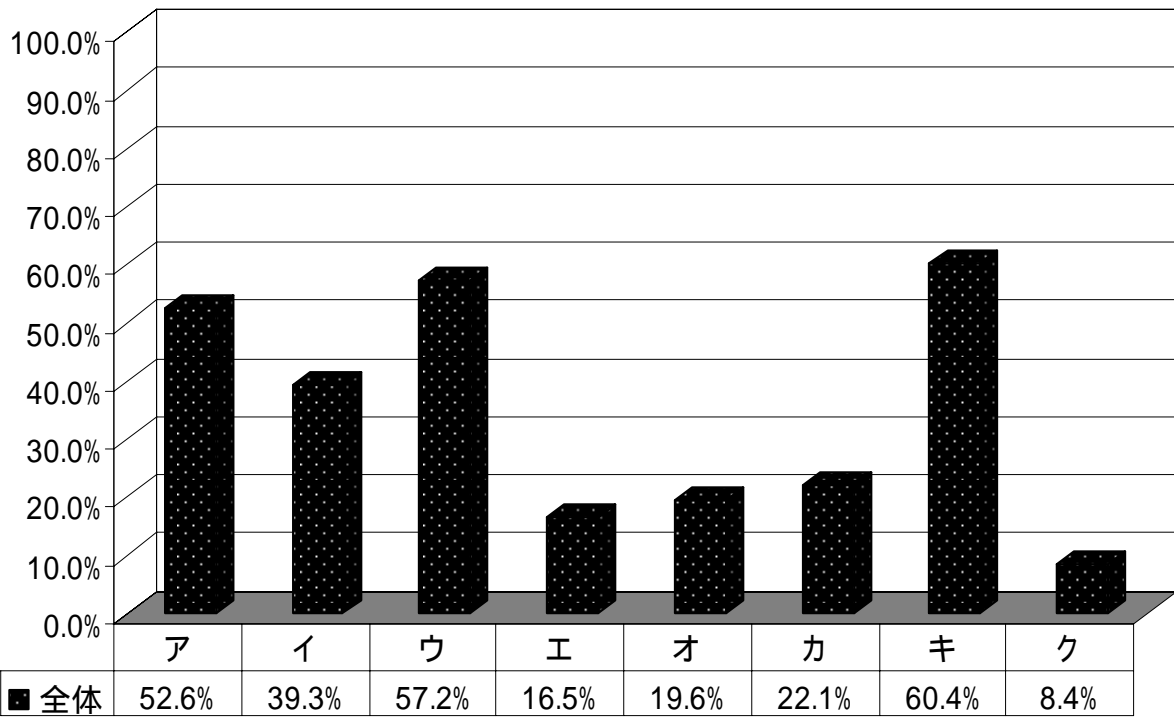
オ 公立の図書館の分館を、各地域のコミュニティーセンターや公民館等に設置する。

カ 読み聞かせボランティアの団体を地方公共団体が審査した上で、認定を受けた団体には公的な補助をする。

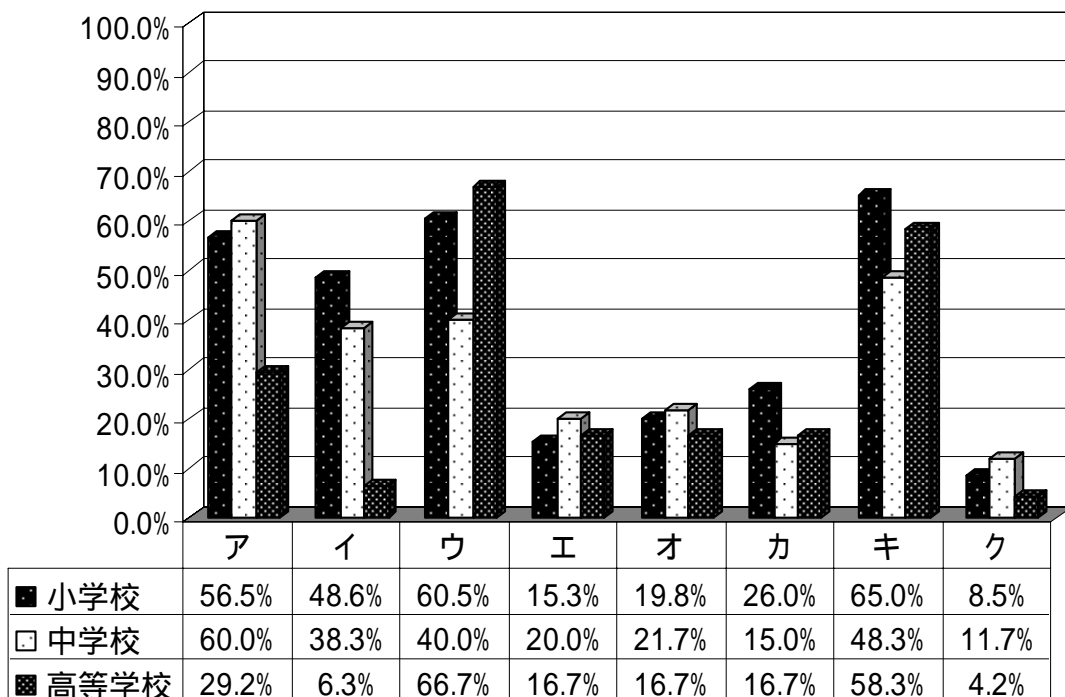
キ 親子で一緒に読書をする時間を作るよう、家庭に対して啓発を行う。

ク その他()

設問4 全体



設問4 校種別



- ・ 選んだ回答者の割合が高かった項目は、キ「親子で一緒に読書をする時間を作るよう、家庭に対して啓発を行う」(全体で 60.5%)、ウ「週 1 時間程度、本の紹介や読み聞かせの時間を作り、児童生徒の読書への意欲を喚起する」(同 56.9%)、ア「学校図書館の蔵書を充実する」(同 52.5%)。
- ・ 選んだ回答者の割合が低かった項目は、エ「認定を受けた児童生徒用の図書を購入する場合は消費税を免除する等の公的な補助をする」(同 17.0%)、オ「公立の図書館の分館を、各地域のコミュニティーセンターや公民館等に設置する」(同 19.9%)、カ「読み聞かせボランティアの団体を地方公共団体が審査した上で、認定を受けた団体には公的な補助をする」(同 22.1%)。
- ・ ア「学校図書館の蔵書を充実する」、イ「学校司書教諭を各学校に配置する」は、高等学校で選んだ回答者が極端に少ない。

家で読書習慣を身に付けることが大切だと考えている回答者が多い。学校で読書に意欲を持たせ、学校図書館を充実させた上で、家庭と連携しながら読書習慣を身に付けることが大切である。

児童生徒用の図書や、読み聞かせボランティア団体への公的な補助が必要だと考えている回答者は 2 割程度である。学校図書館の充実や読書の時間の確保に比べると、これらの取組に対して、回答者はあまり効果を期待していない。

高等学校では、学校図書館を利用するよりも、生徒が書店や図書館等を利用することの方が多と思われる。逆にこの項目は小学校では 5 割程度の回答者が選んでいることから、特に小中学校では、学校図書館の充実、児童生徒の読書習慣を確立するために大切な取組であると考えられる。

その他の意見

- ・ 司書を学校に配置（数校兼務でも）し、図書館を常に有効に活用できる体制をつくる。
- ・ その年に話題になった本や、今、売れている本をクラスの人数分、教室に置くようにする。
- ・ 読書の時間を 10～15 分、学校の日程にいれる。
- ・ 子供と本の出会いが大切。幼児教育において、楽しい本との出会いがあるよう地方自治体が幼稚園、保育園などを支援していく。
- ・ 朝の読書の充実。
- ・ 放課後や土日の図書館開放と職員の配置。
- ・ 読み聞かせボランティアを学校教育に積極的に活用する。
- ・ 読書コンクールへの参加、賞を与える。
- ・ 幼児期までの言語環境の大切さ。家庭での読み聞かせや会話を重視する家庭教育の推進。
- ・ 言語能力の育成や心の教育の育成には有効だと考える。しかし、本当に読書好きな子の多くは他の遊びや活動が少なく、毎日読書という生活で、友人関係もせまくなりがちである。そのため、幅広いコミュニケーション能力の育成に支障が生じる子もいる。バランスのとれた生活や読書が必要と思われる。
- ・ 子供たちの提出物を受け取る時に、「遅れてすみません。」「お願いします。」といったスキルを身に付けさせたり、職員室に入るときには「 組の です。 の用で来ました」と声をかけるように指導したりすることが大切である。
- ・ わたしたち大人も他人のことばに耳を傾け、きちんと「お願いします」「お世話になりました」とコミュニケーションをとる姿を子供に見せなければならない。
- ・ 集団読書用の本を各学校に充実させる。読みっぱなしにせず、内容理解の時間を設ける。

設問5 各教科において有効だと思われる活動例等、言語活動の充実について、その他の意見を自由にご記入下さい。

各教科における活動例

【小学校】

- ・ 今までも行っているが、記述や発表において、主語、述語、理由をおさえて児童が説明できるように各教科で指導すること。「～は、～のため、～です」のような論述、発表をするように指導する。そうすると他の子供も議論ができる。
- ・ まず、声が出ない子供が多いのが現状なので、「音読」は大変効果があると思う。声を出し合ったり、言葉のリズムを楽しんだりする活動から「話すこと」「話し合うこと」につなげていけると考え、実践している。コミュニケーションの基本は信頼関係づくりなので、日常の学校経営の中で教師と児童、児童間で培っていかないと授業だけでは困難である。
- ・ 日常の中での言語に関する活動を見通していかなければならないと思う。授業においては、「読む」「書く」「話す」「聞く」の言語活動を意図的に取り入れていきたい。教科の特質により、扱う語彙も違って来る。どの教科もバランスよく学習することで言語能力もバランスよく育つのではないだろうか。
- ・ 国語科、学級活動は話し合い活動の充実、議論や論述活動等の充実。地域（異年齢）における活動の充実
- ・ 少人数（3～5人）によるグループ学習を各教科道徳において導入する。グループ内で上手く言えなくていいから、みんなが思いや考えを表現する場の確保をする。これの継続と、表現技能を伸ばす、指導者の効果的な言葉かけや全体指導で結果をある程度出せる。
- ・ 百人一首を学級活動に組み入れ、学級チャンピオン大会等を実施することによって、文語調にも慣れ親しむ場を作る。
- ・ 国語だけでなく、社会科や理科等の話し合い活動をディベートによって行うようにする。
- ・ グループ、個人等、できるだけ発言・発表の場を多く設定した授業の展開。
- ・ 各教科とも1時間の内、1～2回程度、自分の考えを記述し、発表する時間を確保する。また、学習中の言葉と普段の言葉を区別して使える練習も低学年段階から系統的に身につけさせる必要がある。
- ・ 教科指導の中で、話し合い活動の時間を必ず確保し、意欲、態度、能力を系統的に育成していく必要があると考える。
- ・ ポスターセッションやパネルディスカッション、ディベート等さまざまな言語活動を取り入れていく。
- ・ 月に1回、日頃各クラスで覚えた詩や名文等をクラス毎に発表する集会を本校では続けている。
- ・ 事実と考えや思いをまとめ、発言できる授業構成の工夫。他者に対するコミュニケーションの場の確保や支援。
- ・ 全員に思考、記述、発言の時間と場を確保することと、指導の工夫が必要である。
- ・ 体験から学ぶというより、体験から課題や問題をつかみとらせ、自主的活動により解決する活動を重視すべき。総合的な学習の時間の取扱を抜本的に見直し、真の自主的活動へと高めなければならない。そのためにも、土曜日の復活を切に望む。
- ・ 各教科においては、一斉学習だけでなく2人組やグループでの活動を積極的に取り入れ、全員が自分の考えを話す場面を確保していきたいと思う。

- ・ 自分の考えを説明する活動を必ず取り入れた授業づくり・考えの根拠で議論する習慣づくりを進める。
- ・ 「話す」「聞く」「話し合う」力を高めていくためには国語の学習の中で、系統的に指導していくことが大切だと思う。話し方、話し合い方など、ある程度型を教え、練習する（ゲームなどして）ことが必要だ。
- ・ 前の子の発表（発言）内容を一部取り入れながら、順次発表をつなげていく。（例）「 のことについて、これから10分間は…」等）
- ・ スクランブル形式の発言の場を多く持って、話すことの体験量を増やす。
- ・ 授業の中で、『学び合う場』を設定し、互いの意見交換によって高まる授業を目指していく。個の学びを大切にしながらも、集団での学びを重視することで、より相手を意識した言語力が培われるものとする。
- ・ 話さなくてはならない状況をつくる。話したくなる経験をさせる。総合と教科の関連を充実させる。
- ・ ソーシャルスキルやエンカウンターを取り入れてみてはどうかと思う。言語の裏には相手に対する思いや生活態度が表れると思っている。
- ・ 有名な詩や小説の冒頭を暗唱できるようにする。
- ・ 読書力の向上とコミュニケーション能力の向上の2つをねらいとした言語活動が有効であるとする。読んだ本の感想を述べあう、読んだ本のおもしろさを伝える、おもしろい本の読み方を教えるなど、国語科の授業の中でしっかりと時間をかけて行うことが重要であると思う。
- ・ 日本語の美しさ、豊かさ等についての指導の場を設ける。
- ・ 古典の音読を通して、言葉のリズムに親しませる。
- ・ 国語辞典の活用 言葉の意味をより明確にすることができる。
- ・ 国語科の時間で、敬語について学習するのは非常に時間が少ない。漢字、計算の力を伸ばすために時間を当てたり、また発表の仕方を訓練したりするのと同様、敬語の使い方も真剣に教えていく必要があるのではないだろうか。同級生であろうが、担任であろうが同じような言葉遣いで話をしているが多すぎるような気がする。「先生がキター」ではなくて、「先生がいらっしやっただけ」でないと。
- ・ あいうえお作文のように、時には楽しく時にはちゃんと文になるように考えて作文を作るように指導する。
- ・ 自分の思いを書く活動を充実させる。
- ・ 書いたことをいろいろな場で発表する場を設定する。
- ・ 国語の教科書に物語文が減ったと思う。文学教材を読んで、感想を出し合うような学習をもっと充実させたい。さらに特活、総合などでソーシャルスキルを学ぶような活動を取り入れたら、年の違う人との関わりを増やす活動を取り入れたらどうか。
- ・ 最近は国語の教材の中で、言語活動を取り入れている内容が多く、学年に応じて、その内容を取り扱っていけば力はつくと思う。
- ・ 読解や言葉遣いのためだけの時間をとって、言葉の大切さを指導する。
- ・ 国語など様々な教科で思考や表現（書く、聞く、話す）の活動を多く取り入れたい。特活が弱くなったのも問題があると思う。
- ・ 国語...言葉遊び（かるた作りを含む）新聞作り、討論を取り入れた話し合い活動 総合...発表会

- ・ 国語の教科書の内容を充実させ、物語文、説明文を多くする。暗唱文単元をつくる。基本文（司会や話し方など）を用意し、暗唱させる文を用意する。
- ・ 国語の時間、読み聞かせを行っている。本にふれあう時間を少しでも増やしたいと思っている。子供たちの興味は上々だ。
- ・ 総合的な学習の時間における地域学習では、地域のお年寄りの方々とふれあう時間を多くとった。その時は子供たちの敬語やコミュニケーション能力が高まったように感じた。私は国語科専攻なので、話し合い活動を重視している。全ての話す力、聞く力は、国語科でという気持ちは強い。
- ・ 算数の授業において、なぜそのような解答になるのかを理由をつけて言わせたり、席の隣同士で話し合わせたりする。
- ・ 算数...どのように問題を解決したか、考え方を少人数集団で交流する。社会...資料からわかること、読みとれることを自由に言い合う時間を設定する。

【中学校】

- ・ 国語以外の教科、たとえば理科などで出てきた重要語句の中に使われている漢字の意味等を取り上げる。
- ・ パネルディスカッションやディベート等、国語、学活、総合的な学習の時間を利用して計画的、系統的に取り組むことが大切である。
- ・ 読書活動は有効であると思うが、インプットするだけではコミュニケーション能力や言語能力は身に付きにくい。アウトプットの場を多く持たなければいけない。
- ・ 中学校になると一斉指導が多く、生徒が話し合う場がない。
- ・ 小学校における国語科の指導時数に比べて、中学校における指導時数が絶対的に不足している。少ない時数の中に討論や論述を技術として取り入れてもその分圧迫され、おろそかにされる分野がでる。特に文学的文章の読解が削られたことと他人の心情を推量できない生徒が増えてきたこととの間に相関関係があるように思えてならない。説明文や討論、論述の指導はもちろんだ大事なものであるが、それと同等に心情を育むための言語活動の時間が大切なのではないかと感じている。結局、母国語の学習が週に3時間（外国語の時間より少ない時数）でいいのかということに行き着く。
- ・ 個々の生徒が発表する場面を設定する。
- ・ 各教科、特活等におけるディベートを含む、話し合い活動を充実させるために、研修をしっかりやる。
- ・ 各教科で筋道をたてて考えること、発表すること、振り向かせること等、丁寧に実践するしかない。
- ・ どの教科においても話し合う活動や自分の思いを文章で表現する活動の確保を心がける。
- ・ ロールプレイング、ブレインストーミングを授業や学活で取り入れる。
- ・ 「自分の考えを書く」という行為をできるだけ多くするようにしていく。主語、述語を使って文章を書くように常に指導していく。
- ・ 各教科での授業において、発問その答えが思考的なものが少なく、クイズでもやっているかのように感ずることが多い。教師もそれら授業について研修を積み、効果的なものにしていきたい。

- ・ N I E (Newspaper In Education)は学校で新聞を教材として活用することだが、読書が苦手な生徒でも興味関心は持ちやすく、政治や社会、文化、スポーツ等あらゆる分野から情報を収集して、意見交換やプレゼンテーションを通して、様々な能力を身につけることができる。
- ・ 漫才、芝居、演劇を生で鑑賞したり、実際に生徒たちに台本を書かせて演じさせるのも表現力、コミュニケーション能力をつけるにはいい方法かもしれない。(映画作り、漫才は結構面白かった)
- ・ 発表に必要なスキルを教科や総合で指導する。
- ・ 自分の意見や考えを全体の場で発表する場をしっかりとる。
- ・ 国語や英語等で読み書き、を多く取り入れた授業を行う。教育相談等で話す機会をつくり、安心して話をするができるような人間関係を築くことに努める。
- ・ 英語の授業で毎時間決まったペアワークを繰り返すことで、英語は人とのやりとりに使うものであるというコミュニケーションに関する基本姿勢を身につける。
- ・ 研究作品、レポートの発表の場をもつ。(総合の時間、選択教科の時間を特活、教科にまわす)
- ・ きちんと会話ができる人が減ってきていると思う。きちんとして指導できる人が果たしているのだろうか。
- ・ 時事問題を取り扱う等してディベートや討論の充実。
- ・ 学級会(話し合い活動等)の適切な活用・授業において自分の考えを自らの言葉で表現する発問の工夫(時数的なゆとりが必要)・教員の教科書を離れた時季の話題の提供や感性の育成を図る指導力を向上する。

【高等学校】

- ・ プレゼンテーション能力の育成。
- ・ 体験的な学習(職場体験、介護体験、マナー体験など)を通じて、場に応じた自分のあり方を考えさせることで、言語活動の幅や多様性が広がると思う。

教科の学習以外の時間での取組

【小学校】

- ・ 子供同士が十分に話し合える時間の確保が必要。
- ・ 全校体制で、「今月の詩」を設定し、毎朝暗誦の時間を設定したり、児童朝礼で暗誦したりする等、教科に限定せず、言葉に触れる時間を設定するとよい。
- ・ ことば遊びのゲームのような活動を学級活動の時間等に行い、言語に関する興味関心を持たせるような取組が小学校においては有効だと思う。
- ・ 人間関係を友達との遊びの中で、十分に学べない子が増えて来ているように思う。ソーシャルスキルトレーニングを校内で行う時間や場が必要だと思う。
- ・ 教師と子供たちが自由に話し合える場と時間の確保。
- ・ 本校の子供たちはよく読書をしている。教室、廊下、そして多目的ホールに本が並んでおり、本と親しみやすい環境がつけられている。「本が子供たちの身近なところにある」ことがまず大切である。
- ・ 小中連携の中で、教師が9年間をひとくくりとして、課題を捉える必要があり、本市では小中連携を進めている。
- ・ コミュニケーション・スキルのトレーニングを平成21年度に取り入れようと考えている。全校体制で臨むことが求められる。

- ・ 朝のスキルの時間を利用して、フリートーク（学活）の実践を継続させていく。
- ・ 日常生活の中で、言葉遣いや心配り等、人とのコミュニケーションの取り方を教える。
- ・ 朝の会でのスピーチを取り入れる。
- ・ 話型を入れて、単語だけでなく、文でしゃべる学習活動をどの教科でも入れる。
- ・ 読む、書く時間の設定が必要だと思う。読む...朝の読書を年間を通して行う。書く...日記を毎日書かせる。
- ・ 朝の読書活動を行っている学校は多いと思うが、その活動の内容が大切であると思う。短時間でも良いので、学校全体で、継続して行う（10年は実施してほしい。当然毎年その活動について検証することを前提として）同時に、読書環境の整備と指導の徹底を行う。これには、管理職等のリーダーシップがとても大切になってくる。
- ・ 流行ことば（うざい、きもい）の相手に与える印象を考えさせる。
- ・ 道徳や学級会活動などでの話し合い活動を充実させる。（話し合い活動マニュアル本を作り、活用する）
- ・ パソコンやゲームにより文字（本）に親しむ時間が少ない状況なので、できるだけ学校で読書の時間を確保する。又、郡読、読み聞かせ、親子読書などを通じて本への興味、大きな声を出すことなどを習慣づける。
- ・ 朝の会での1分間スピーチを順番に行う。（内容は紙に書いておき、メモを見ながら言えるように励ましておく）
- ・ 日記指導（毎日の宿題）できるだけコメントを教師が書く。・帰りの会での5分日記や3行日記。
- ・ 高学年では、総合的な学習の時間に自分の考えや調べたことをプレゼンテーションする機会があったり、道徳でもお互いの価値観をぶつけ合う授業を仕組んだりすることができたが、低学年からの積み重ねがないために、議論が一方通行になったり、得手、不得手がはっきりしているという実態があった。
- ・ 社会科や総合等での調べ学習や、グループ学習を有効活用する。

【中学校】

- ・ 日常的に読書活動の時間を設定する。
- ・ 話し合い、学び合う活動を授業や学校行事、生徒会活動等、様々な場面で意図的に取り入れて充実させていくよう、本校においても現在取り組んでいる。
- ・ 小学校低学年時より、他人の前で自分の考えや意見を話すという練習を、常時指導、教科指導、特別活動などの教育活動の中核に位置づける。そして更に発達段階に応じて、ディベート等を取り入れ、言語能力を高めるための取り組みを行う。

【高等学校】

- ・ とにかく「本」を身近なものにするため、教室に本を置くだけでもかなり効果はある。
- ・ 研究や活動等をまとめ、多くの聴衆の前で発表する機会をつくっている。
- ・ 毎日の帰りに、SHRで3分間作文をさせている。書き慣れることが言語能力の向上につながる。
- ・ 1日1回のSHRの活用。議論をさせる場を設定する。1日1議論をし、自分の意見、表現、考えを伝える。そして他の人の意見を聞き、自分の意志を伝える作業をさせる。

- ・ 日誌・日記の利用の充実。学級にとどまらず、個人で行ってみたい、家庭で親と子供のコミュニケーションの一つとして行ったりする等。(携帯などコミュニケーションツールはあるが、ボタンを押すのではなく、きちんと手を使って文字を書くという行為をすることが必要なのではないか。
- ・ パソコンや携帯の画面に出る文字や言葉は、形として見てしまうのではないか...文字や言葉には、意味や気持ちが込められていることを感じるためには、やはり「書く」という行為が必要であり、それが言語活動の充実につながるのではないか。
- ・ 総合的な学習の時間の使い方を考える。

教職員としての心構え

- ・ 言語活動を充実させるには、まず指導する自分たちが語彙感覚を磨いていかなければならない。
- ・ 漢字力の低さをもっと真剣にとらえ、危機感を持つ。
- ・ 集団の中での自己認識や有用感を育成する学級経営や、日常の教師の投げかけ。子供がダメになったのではなく、大人がダメになった。
- ・ 教え込みでなく、子供の話し合いを中心とした単元構成や授業づくりに取り組む等、教師の意識改革と研修も必要。

家庭での取組

- ・ 家庭で読書をしたり、会話をしたりすることが子供たちにとって大切なことである。
- ・ 特に男子のコミュニケーション能力が低下している。ゲームによる言語能力の低下と、母親による過干渉により、意志を持たなくなったためと思われる。
- ・ 子供の言語については幼児期からの教育、家庭での教育が基本になるので、そこでの教育の充実に力を入れる必要があると思う。
- ・ コミュニケーション能力の低下において、大きな要因は携帯電話、ゲームにあると思う。会話よりもメールでのやりとりの方が、本音で話せるようだ。また、ゲームという媒体があるので、友達がいなくても時間を持て余すことなく過ごしていることがある。携帯、ゲームの持ち込み、使用を禁止しても能力の変化があるとはあまり考えられない。学校においては教師が、家庭においても保護者がしっかりその子を見て、話しかけてあげることが大切であると思う。

学校・家庭を含めた社会全体での取組

- ・ 今の子供に対応した新しいメディアも考えるべき。双方向性のメディアを利用し、意志や考えをつなぐことも必要なのではないか。
- ・ 社会・家庭の影響も大きいと思うが、テレビやゲーム、まんがなどのマスコミによる情報が子供の言語環境に大きな影響を及ぼしていると思う。短絡的で無気力な子供が増えており、読書をすることも落ち着いてできない子供が目立つのが現状である。
- ・ テレビ、ゲーム、インターネット、メール等を制限するだけで、読書量が増え、言語活動も活発になると考える。情報が与えられるだけの現代の子供は、昔のように文字や言語を必要としなくなっている。昔の子供は情報に飢えていた。そのため本を読み、語っていた。

- ・ 塾やゲーム、子供の遊び行動が言語能力やコミュニケーション能力を育てるのに適しているとはいえない。環境を（社会全体）整備することが大切である。
- ・ テレビ、ゲーム、携帯電話に大きく影響されている。規制すべきだと考える。
- ・ 子供と会話のできる”ゆとり”があることも大切だと思う。
- ・ 言語活動の充実に向けて、PTA や地域のボランティアの方の協力も得ながら、取り組んでいる。
- ・ 学校教育ではもちろんのこと、家庭や地域社会をはじめ、様々な機会・場所で適切な言語環境や使用について、必要性を訴えたり、モデルを示したりするなどのキャンペーンが必要なのかもかもしれない。
- ・ 人のいる学校図書館は子供が集まる。学校司書教諭を配置することが大切である。
- ・ 我が校では朝の自習の時間に読書の時間や読み聞かせを行っている。読み聞かせには、保護者のボランティアの方が協力してくださり助かっている。また、学級文庫に置いてある本が古く、新しい本が必要だと感じる。
- ・ 読書の習慣は幼児期が勝負。言葉もそこから学ぶことが多い。学校や保育所などで本に親しんでも家族でそれを楽しむことができなければ、効果は半減してしまう。本との出会いを作るためにファーストブック（はじめての本の贈り物）の取組がとても有効であると思う。しかし財政事情の厳しい昨今、取組をやめる自治体も出てきて残念に思っている。
- ・ 家庭や地域の中で育ってくる言語能力を、学校教育だけでつくるのは無理がある。子供の面倒をみない家庭が多くみられ、中学生では一人で放置されている家庭が多い。当然、言語能力など育たずがなく、健康面や心の面で、教師は多くの時間をかけなければならない。これでは日本はますます学力低下や孤立化を迎える。家庭に対する子育て支援を望む。
- ・ コミュニケーション能力や言語は、自分や相手をどれだけ大切に思えるか、そういう心がしっかり育てば自ずと改善されるのではないか。家庭、学校、地域で、心を育てることを重要視すべきである。
- ・ 話す機会を増やすこと、会話のチャンスを増やすことが必要だと思う。地域のつながりを強くすること、大人の意識改革。
- ・ 目や耳から入ってくる情報、言葉があまりにも乱れていて、その影響をものを受けている感がある。（特にテレビ）
- ・ 話す機会を多くし、大人がその都度、言葉遣いや服装などをきちんと注意することができるようになれば改善すると思う。
- ・ マスコミや社会が無責任だと思うが、それが仕事で仕方ないという気もする。やはり社会全体に問題がある。
- ・ 言語活動の低下は世代に関係なく広がっているのではないだろうか。さらにそれはコミュニケーション能力の低下にもつながっていると思われる。家庭、学校、地域、の総合的な教育力で回復していかなければならない切実な問題であると思う。
- ・ 言語能力やコミュニケーション能力を向上させるためには、生徒自身が自己主張できる場（発言できる機会）を多く作ることが大切だと思う。教科のみならず、家庭や地域での交流といった機会を多く作ることを考えていくべきだと思う。

その他

- ・ 読書をしてもらおうにも学校で図書を整備する予算が少ない。地方へ配分する図書費を地方交付税としてではなく、教育予算（学校用図書）だけにしか使えないように国庫負担金に組み入れて欲しい。
- ・ 言語に触れる機会が少なくなっているというよりは、うまく使うことができていない児童が目立つ。
- ・ 授業が充実するよう教員を増やし、難しい内容を減らし、基礎的・基本的な知識・技能を時間をかけてゆっくり教える。そして物事の善悪を色々な場面で繰り返し教えていく。
- ・ 言語だけの問題ではなく、先を見通す力や想像力、相手を思いやる心など人間として少しずつ身に付けていくべき能力が積み上げられていない気がする。言葉とは相手を想像することなしに、成立しない。自己中心、自分本位の子が増えているために主語も欠落し、敬語も使い分けられていないのではないか。現代人の脳の発達が小5を境に止まるという説もある。
- ・ IT関係も含めて、国の補助が地方への交付金として以前に予算化されているが、教育現場には十分に反映されていない。地域の子供会等、縦の子供のつながりが少ない。上級生を見習って、言葉や話し方を覚える機会を増やす。

全日教連の見解

新学習指導要領では、「言語に関する能力」を「思考力・判断力・表現力等を育てるために、知識・技能の活用を図る学習活動を支えるもの」と位置付けている。基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視し、キーワードとして各教科における「言語活動の充実」を盛り込んでいる。

一方、平成 20 年 11 月 29 日、日本教育文化研究所は「言葉で育てる豊かな心 ～心のマナーモードを～」をテーマに、東京都港区において「『明日の日本の教育を考える』教育シンポジウム東京」を行った。森隆夫教文研所長をコーディネーターに、3 人のパネリストによるシンポジウムを通して、言葉と心の関係について議論を深めた。「言語に関する能力」と「心の育成」の両面から、言語活動を充実させる必要性が提言された。

今回のモニター調査では、言語活動を充実するための方策や、活動例等をまとめた。これらは会員に公開し、言語活動の充実を目指した教育実践の工夫をする上での一助としたい。また、言語活動を充実し、確かな学力や豊かな心を育てるための条件整備についても見解をまとめた。以下の点について、関係諸機関に対する要望活動を行っていきたい。

(1) 図書費の充実

言語に関する能力を育てるためには読書活動が不可欠であるという意見が多かった。しかし、学校図書館や学級文庫の本は古くなっているものが多い。児童生徒の興味関心を惹きつけることができる良書は多く発刊されている。これらをできる限りたくさん学校に整備することが大切である。

平成 19 年度の学校図書館図書整備費の予算措置状況をみると、実際に図書購入費として計上されたのは全体の約 78% である。また、地域間格差も大きく、満額以上の予算を措置している自治体もあれば、わずか 38% 程度にとどまっている自治体もある。これは、図書整備費を地方交付税措置としていることが大きな理由である。

図書購入費を十分確保し、地域による格差をなくすために、図書整備費は義務教育費国庫負担に組み入れ、確実に措置されるようにすることが大切である。

(2) 学校司書教諭の配置

学校図書館に人がいると、子供は自然と集まるといった意見があった。読書体験が少ない児童生徒は、選ぶ本が偏っていたり、読み応えのある本を避けたりする傾向が見られる。学校司書教諭が、学年の発達段階や個の読書の傾向に応じて適切な本を紹介することで、読書の楽しさを知り、読書が好きな児童生徒が増えると考えられる。

(3) 読み聞かせボランティアの充実

本に興味関心を持たせるために、特に学年の小さい子供にとって、読み聞かせは有効な手段の一つである。また、一人で読むのに比べてコミュニケーション能力の育成にも効果があると考えられる。家庭でこのような取組ができれば、さらに高い効果が期待できる。

読み聞かせボランティアを充実させることで、保護者への啓発も同時に行うことができる。このようなボランティアに保護者が積極的に関わるようになると、学校と保護者との関わりも深くなる。国や地方がこういった活動を積極的に推進するための取組を行うことが大切である。

(4) 携帯電話の使い方についての啓発

言葉の問題やコミュニケーションの問題を考えると、特に中学校・高等学校では携帯電話の使い方についての議論を避けることはできない。それほど、子供たちの生活に深く入り込み、中には1日中携帯電話を手放すことができなくなっている子供もいる。

また、学校非公式サイトは文部科学省の調査では約38,000件と報告されているが、実際は氷山の一角に過ぎない。プロフへの誹謗中傷の書き込みが原因で自殺をしたり、傷害事件を起こしたりする事例もある。

教育再生懇談会は審議のまとめ(第3次報告)の中で「携帯電話利用の在り方について～有害情報、生活習慣の乱れなど携帯電話利用に伴う弊害から社会総がかりで子供を守る～」という提言をまとめた。必要のない限り小中学生に携帯電話を持たせないための取組、通話機能等に限定した携帯電話の普及のための取組、フィルタリングサービス利用促進のための取組が示されている。これらに関して、国や地方自治体が積極的に実行に移していくとともに、保護者への啓発が必要であろう。

(5) テレビや映画、漫画等への規制

テレビ、映画、漫画等に使われている表現やストーリーに、子供たちは大きな影響を受けている。いじめ・自殺・非行・薬物依存・家出等をテーマにしたドラマやドキュメント番組等の視聴には、一定の年齢制限を設けるべきであろう。また、バラエティー番組やドラマ等で使われている言葉も、子供たちに与える影響に配慮が必要である。今後地上波デジタル放送によって、データを双方向で送受信できるようになることから、これを利用して視聴番組の年齢制限を設ける等の取組を推進することも有効な手段である。

また、出版物についても内容を精査し、不適切な表現については改めたり、対象年齢を明記したりするなどの取組が必要である。表現の自由との兼ね合いも考慮しながら、マスコミ等が自主規制に取り組む姿勢を期待したい。

(6) 家庭でのコミュニケーションを支える取組

言葉は体験によって身に付けるものである。幼児期からの言語体験の大切さを指摘する意見も今回のモニター調査では多く見られた。設問2においては「核家族化や共働き家庭の増加による家族間の関わりの減少」を8割以上の回答者が指摘した。

家庭でのコミュニケーションを増やすためには、社会的な取組が不可欠である。安定した収入が得られるための雇用促進、育児休暇制度の充実、子育て教室や教育相談の充実等を進めるためには、国や地方自治体の支援が必要である。

また、「地域コミュニティの構築」も大切である。地域によっては、子供会活動や自治会活動等が現在も活発に行われているが、その多くは公的な資金援助が不足している。会費が高額になったり、役員が持ち回りになったりしている実態もあり、煩わしさを感じている住民も少なくない。そのことが原因で子供会活動や自治会活動は次第に活動の幅や規模を縮小している。「地域に住む住民の結びつきを強め、協力し合う」という本来の目的から遠ざかっていると言える。本来の目的に向かって活動できる地域コミュニティを構築するためには、やはり財政面や人材面での公的援助が不可欠になってきている。

(7) 言語活動を取り入れた教科指導

各教科の時間や、それ以外の時間における活動例が、今回のモニター調査には多く寄せられた。朝の読書や日記指導、ポスターセッション、パネルディスカッション、ディベート、NIE、ソーシャルスキルトレーニング、百人一首等のアイデアを取り入れた授業をさらに推進したい。

教育研究全国大会では「教科指導」分科会を設置している。新学習指導要領の円滑な実施に向けて、確かな学力を育成するための実践報告を行う。全日教連としても、研修活動を充実して、言語活動を重視した教科指導の在り方について探っていきたい。